

**【研究主題】****自分に関する簡単な話題について即興的なやり取りを続けられる児童の育成****【主張】**

本研究では、「自分に関する簡単な話題について即興的なやり取りを続けられる児童」の育成を目指している。学習指導要領外国語科の目標に「(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う」と明記されている。身近で簡単な事柄について聞いたり、話したりするやり取りを、ある程度即興で続けるためには、相手が言ったことを繰り返したり、応答したり、質問したりする表現の獲得や技能が必要である。そこで、自分のやり取りの様子を振り返り、やり取りを続けるために必要な表現を考え、学級内で共通理解した上で、タブレット端末内で共有されている友達の自己紹介動画に対して、繰り返したり、応答したり、質問したりするといったやり取りの練習を一人で行うことで、実際のコミュニケーションの場面でも即興でやり取りを続けることができると考えた。

〈手立て1〉 困り感を解決するための表現の獲得と共有

〈手立て2〉 セルフトークの実施

**1 研究主題設定の理由**

学習指導要領によれば、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして自分の考えや気持ちを伝え合う児童を育成するためには、「自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり、相手に関する簡単な質問をその場でしたりして、短い会話をする活動」を設定し、「質問に対してその場で答えたり」、「質問をその場でしたり」する即興的な活動に取り組むことが必要と明示されている。

また、これまでの私の指導では、児童がやり取りを続けるための同意や応答、繰り返しという表現を学習してもその内容が蓄積されていかなかった。それは、児童のやり取りを続けようとする時の困り感を共有したり解決したりする時間を設定しなかったからだと考える。さらに、ペアでの学習を取り入れたところ、他者と自分を比較して、自信や学習意欲を失ったりする児童を出してしまった。そこで、タブレット端末を活用し、やり取りを継続するための表現や困り感について学級内で共有し、他者と比較されることなく、自分のペースで同意や応答、繰り返しの練習（セルフトーク）をすることで、実際のコミュニケーションの場面でも即興でやり取りを続けることができるようになってきた。

**2 研究仮説**

英語でやり取りが続かない児童に対して、表現を獲得し、共有した上でセルフトークを行えば、同意、応答、繰り返しと言った5年生に求められる即興的なやり取りを続けられるようになるだろう

※本研究におけるセルフトークとは、「共有フォルダからダウンロードした動画に対して、自分の考えや気持ちを伝えるような同意や応答、繰り返しといったやり取りの練習をすること」とする。

**3 研究の内容と方法****(1) 研究の内容****【手立て1】 困り感を解決するための表現の獲得と共有**

タブレット端末で撮影、録画した児童とALTのやり取りの様子を確認させ、自身のやり取りを客観的に振り返らせる。ここでは、「本当はどんなことを相手に伝えたかったのか」、「どんなことに困ったのか」などの困り感を表出させる。その後、グループ、全体でやり取りを続けるために必要な表現を考えたり共通理解したりする場を設定する。

**【手立て2】 セルフトークの実施**

児童一人一人が自己紹介の様子をタブレット端末で撮影し、共有フォルダへ提出する。共有フォルダ内の友達の動画を見ながら、セルフトークを行わせる。その際、動画を一時的に止めて、自分の考えをまとめてからセルフトークを続けたり、学級内で共通理解した表現方法を確認したりしてもよいこととする。他者と自分を比較させることなく、やり取りを続ける自信をつけさせる。

※タブレット端末…chrome book, 学習支援アプリケーション…ロイロノート

**(2) 研究方法**

令和6年度5年生（30名）に対して、本研究仮説に基づく実践を行い、以下の点から手立ての有効性を検証する。

- ① 実践の前後における抽出児の変容について比較し、即興でやり取りを続けられるようになったかを検証する。(抽出児 A)
- ② 学級全体への振り返りアンケート(「同意、応答、繰り返しを何個取り入れることができた」)を数値化して検証する。
- ③ ALT との交流会で児童が実際に使ったやり取りを続けるための表現の個数(学級の平均)の変容を検証する。

#### 4 研究の実際(令和6年6月実施)

- (1) 単元名:「Here We Go! Unit3 『What subjects do you like?』全9時間」
- (2) ねらい 好きな教科や自分の興味・関心を伝えるとともに相手の興味・関心について聞いた上で、即興でやり取りを続けることができる。
- (3) 手立ての検証

##### 【手立て1】困り感を解決するための表現の獲得と共有

「Here We Go! Unit1 『Hello, everyone.』の学習の終末で、ALT とやり取りをした動画を子どもたちに振り返らせ、自分のやり取りを長く続けるために何が必要だったのか気付かせる。その後、「Here We go! Picture Dictionary Response」等を参考に、やり取りを続ける表現について獲得し、共有させる。

##### 【手立て2】セルフトークの実施

興味関心について自己紹介する動画を各自がタブレット端末で録画し、学習支援アプリの提出箱へ提出させる。提出箱には30人分の自己紹介動画が提出され、児童が、自由にダウンロードしたり、閲覧したりできるようにした。ダウンロードした動画を各自のタイミングで再生したり途中で停止したりして、「同意」や「応答」、「繰り返し」といったやり取りの練習を繰り返し行わせる。

#### (4) 実践の概要

##### ①単元のゴールの確認と学習計画の設定(1時間目)

市内の別の学校に勤務するALTから自己紹介動画が届き、「今度あなたたちの学校に行きたい。」と言っていることを児童に伝え、単元のゴールを「2人のALTの先生と自分の興味のあることについて英語でやり取りができるようになる」とした。また、2人が「好きな教科」についても自己紹介で話していることから、教科の名前や好きな教科のたずね方や伝え方を学習計画に入れることを児童と決めた。



(ビデオメッセージの様子)

「分かったよ」って何て言うんだろう？

##### ②やり取りを続ける表現の獲得と共有(2時間目)

Unit1終了時のALTとのやり取りについて振り返りを行い、自分に必要な表現を「Here We go! Picture Dictionary Response」やインターネットで調べた。自身の動画を見た抽出児は、ALTの「言っていることが聞き取れ、言っていることも分かったが相手の言っていることに英語で反応することができなかった。」と考えた。



前回のやり取りについて動画を見て確認している様子

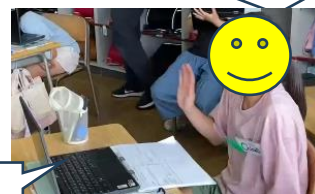
〈共通理解した表現〉【相槌を打つ】○Wow.○I see.○Really?○Hi,△△【たずねる】○Why?  
 【相手の言葉を繰り返す】○Oh,You like～【いいねと伝える】○Good.○Great. 【相手の頼みを受けれる】Ok.  
 【私も同じと伝える】○Me,too. 【相手にもう一度同じことを言ってほしい】○Excuse me?○One more time.  
 【相手の言っていることが分からない】○I'm Sorry. I don't know.

##### ③セルフトーク1回目の実施(4時間目)

ワークシート1に自分の名前、好きな教科を記入し、その原稿通りに話している様子をタブレットで撮影させ、学習支援アプリの共有フォルダに提出させた。セルフトークの流れについて説明し、児童に行わせた。初めての活動のため、画面に映る友達や教師に対して緊張しながらやり取りを行っていた。抽出児は、使いたい表現に

「I see.」を挙げてセルフトークでも取り入れていた。

Hi, M. My name is C.



My name is M.

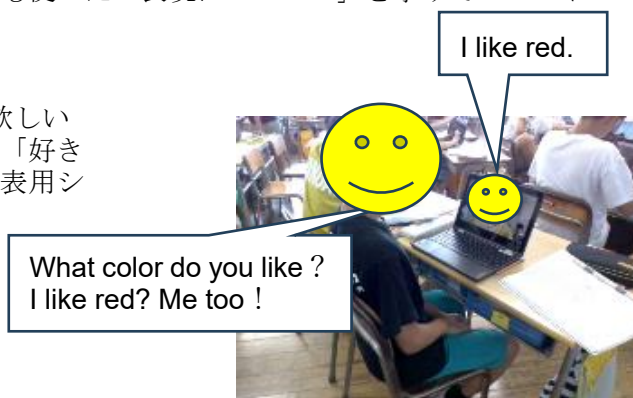
セルフトークの様子

#### ④ セルフトーク 2 回目の実施 (6 時間目)

前回のワークシート 1 の内容に加えて、自分の好きな教科が時間割に入っている曜日を記入させ、その原稿通りに話している様子をタブレットで撮影させ、学習支援アプリの共有フォルダに提出させた。セルフトークの流れについて、児童は理解しているため、準備ができた児童から活動に取り組みさせた。セルフトーク 1 回目より笑顔が増え、楽しそうに動画を視聴したりセルフトークに取り組んだりする姿が見られた。抽出児は、今回も使いたい表現に「I see.」を挙げてセルフトークに取り組んでいた。

#### ⑤ セルフトーク 3 回目の実施 (7 時間目)

「自分の名前」と「自分の誕生日」「誕生日に欲しい物」「好きな教科」「好きなスポーツ」「好きな形」「好きな動物」「好きな食べ物」「好きな色」について発表用シートに記入させた。記入が済んだ児童からセルフトーク用の動画を撮影し、提出させた。発表用シートの記入に時間がかかってしまった児童は、自身の動画を提出できなかったが、友達が提出した動画をダウンロードし、セルフトークを行っていた。



#### ⑥ ALT2 名との交流会 (8 時間目、9 時間目)

単元のゴールである 2 名のゲストティーチャーと 1 人ずつ交流を行った。7 時間目で考えたテーマの中から 2 つ選び、即興でやり取りを行った。児童は、初めて会う外国人に緊張しながらも自分の興味あるテーマについて伝えたり、ゲストティーチャーの興味のあるものについて聞き、理解しようとしたりする姿が多く見られた。また、相手の話した内容を理解した上で、「I see.」や「Me, too.」「You like〜.」と応答や同意、繰り返しを行うことができた。一方で、聞き取れない時や理解できない時に「Excuse me.」や「Sorry.」「I don't know.」などの表現をほとんどの児童が使うことができなかった。



ALT と会話をしている様子

##### 【ALT1】

Hello. My name is Danny. Nice to meet you. (ALT)

Nice to meet you. (抽出児)

**Hi, Mr. Danny.** My name is C. (抽出児)

Chinatsu? (ALT)

What animal do you like? (抽出児)

I like rabbits and dogs. (ALT)

**I like dog. Me too.** (抽出児)

Oh nice. Very good. C (ALT)

What animals do you like? (ALT)

I like dog. (抽出児)

Dogs nice! Very cute! (ALT)

What foods do you like? (ALT)

I like sushi. (抽出児)

Oh sushi? I don't like sushi. (ALT)

Very good. Thank you. (ALT)

Here you are. (抽出児)

Thank you very much! Very cute! Thank you.

See you. (ALT)

See you! (抽出児)

##### 【ALT2】

Are you ready? (ALT)

OK. (抽出児)

Let's start. Hello. (ALT)

Hello. (抽出児)

My name is George. What's your name? (ALT)

**Hi, Mr. George.** My name is C. (抽出児)

What animal do you like? (抽出児)

I like...I like lemurs. (ALT)

They are very cute and can jump high. (ALT)

How about you? What animals do you like? (ALT)

I like dog. (抽出児)

Very nice. I have one question for you. (ALT)

What sports do you like? (ALT)

I like volleyball. (抽出児)

Nice. (ALT)

What sports do you like? (抽出児)

I like skiing and surfing. (ALT)

**Oh... I see.** (抽出児)

Yeah. Very good. (ALT)

抽出児と ALT の会話の内容 (波線太字はやりとりを続けるために抽出児が使用した表現)

## 5 成果と課題

### (1) 実践の成果

#### ・獲得した表現を使用してのALTとの交流（抽出児の変容）

本実践前の抽出児は、相手の言っていることが分かっても分からなくても、無言でうなずくという形で相手に反応をしていた。しかし、自身のやり取りを振り返り、英語で「分かった」という表現を使えるようになりたいと考えた。セルフトークの1回目と2回目では「I see.」という表現を意識して使っていた。2名のALTとの交流会では、1名には、受け止めを伝える「Oh, I see.」を、もう一方には、同意を伝える「I like dogs. Me too.」と相手の話に合わせてやり取りを考え、表現を変えていることから、本実践を通して相手の興味・関心に対して即興でやり取りができるようになったと考える。

#### ・やり取りを続けるために使用した表現の増加（学級全体への振り返りアンケート）

セルフトーク実施の場面	4時間目	6時間目	7時間目
動画の相手にやり取りを続ける表現を何個使えましたか	2. 3個	2. 7個	3個

セルフトークを行った1回目（4時間目）、2回目（6時間目）、3回目（7時間目）それぞれの終了後にとったアンケートの結果から、回数を重ねるごとに動画の相手と少しずつやり取りを続けたり表現が使えるようになっていたりしていることが分かった。また、児童の振り返りの中に、「最初はセルフトークが難しそうだったけど、慣れるとスラスラ話せるようになってうれしかった」「自分で話すタイミングが決められるし、いつでも練習できるから楽しかった」という記述があったことから、実際の人物と会話をするペアトークよりも落ち着いて練習ができ、他者と比べられずに楽しんで練習できたと言える。また、セルフトークを取り入れた本実践は、これまでなかなか外国語の学習に取り組めなかった児童も離席せず練習したり、ALTとのやり取りができたりという成果につながった。

#### ・交流場面でのやり取りを続けるために使用した複数の表現

(ALTとの交流会で児童が実際に使ったやり取りを続けるための表現の個数の平均)

交流したALT	自校のALT（実践前）	Mr Danny	Mr Gorge
ALTとやり取りを続けるために使った表現の個数（学級の平均）	0.1個	3個	2.4個

※実際に交流会で児童が使った表現の一覧は別紙参照

2名のALTの交流会では、これまでのセルフトークで練習し獲得した表現や方法を使い、会話を楽しんでいった。特に相手の名前を名乗ってもらったら、その名前を繰り返すことや相手の話を理解できた時に用いる「I see.」、相槌の代わりに用いる「Oh…」、同意を表す「Me too.」をよく使用していた。全体の中で使用頻度は少なかったが、相手にもう一度説明して欲しい時に使う「Sorry.」「Excuse me.」「One more time.」、相手の話しにいいねと伝える「good!」、驚きを伝える「Wow!」などの表現も使っていた。初対面の相手に即興でやり取りを続けようとして表現を選び、伝えることができるようになったと言える。

### (2) 実践の課題

#### ・共有した表現を柔軟に使い分けることの難しさ（抽出児の見取り）

抽出児は、本実践を通して「I see.」が相手の話しを受け止めたことを伝える表現だと知ると、繰り返し練習し、活用できるようになった。また、同意を伝える「Me too.」も使えるようになった。しかし、相手の話す英語が分からなかった時に、そのことを伝える「問い返し」や「Sorry」などの表現を使うことができなかった。これからも繰り返し、実践を続ける必要がある。

#### ・セルフトークを取り入れた単元計画作成の難しさ（全体の見取り）

児童と共同で設定した単元のゴールや学習計画と教科書の整合性をとることが難しかった。単元のゴールの発表場面で必要な言語材料と、教科書で示されている言語材料に違いがあるため、教科書の指導とセルフトークの実施とで行き来したことから、混乱する児童を出してしまった。児童一人一人が自分のペースで落ち着いて練習できるといったセルフトークの良さはあるが、今後取り扱う単元において、セルフトークをどこに位置付ければよいか吟味していく必要がある。また、実際の外国人との会話では、相手によって話す速度やイントネーションの違いなどで聞き取りやすさも大きく異なることが考えられる。より即興的なやり取りを誰とでも行えるようになるには、セルフトークで扱う動画の内容や対象についても再度考え、改善していきたい。

## 6 参考文献

- ・文部科学省（2017）「小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編」